

第27回 DAAS運営委員会 議事要旨

1. 日 時：2014年8月28日（木） 午後1時00分～午後2時30分

2. 場 所：ソーシャルインキュベーションオフィス SUMIDA セミナー室

〒100-0014 東京都墨田区本所 3-15-5 1階 Tel: 050-3786-0568

3. 出席者（敬称略 順不同）

運営委員長：三塩（日本設計）

委 員：末富委員（住団連）、竺委員（建築学会）、青木委員（BCJ）、本多委員（山下設計）、早川委員代理 安生氏（日建設計）、早川委員（士会連合会）、中田委員（宮城大学）、穂本委員（積水ハウス）

SIOS : 坪田 IM、上村 IM

事務局：武藤

4. 配布資料：

資料1 - 「DAAS運営基盤の安定化検討WG」検討内容と経過報告

資料2 - DAAS事務局移転と支援について

資料3 - DAAS収支シミュレーションについて

資料4 - まちなみ景観事例の収集・情報提供活動事業(技術資料の収集)事業の実施について

5. 議事：

■承認事項

[議案1] 「DAAS 運営基盤の安定化検討 WG」検討内容の経過報告

資料1に基づき、WGのこれまでの活動報告、検討内容の経過報告を事務局より行った。主な報告事項として、資料2の公財)建築技術教育普及センター(以下、普及センター)への事務局移転と普及センターからの支援の内容、資料3のDAASの会費減額のためのシミュレーション、減額時のシナリオ等について説明。その際以下のような意見交換が行われた。

【以下、意見等】

(事務局)WG での検討事項についてだが、金沢工業大学、文化庁 近現代建築資料館の運営の方でもご尽力されている竺先生にも WG に参加頂いている。補足があれば竺先生にもお願いしたい。

(笹委員)文化庁でも文化資料のアーカイブスを国家的な事業として行う事も考えていて、予算をつけるという話である。アーカイブス資料のあり方、アーカイブス資料に関する新しい著作権のあり方も文化庁でも考えている。これからアーカイブスが機能して行く中で、フレキシブルな対応、決定がされていくと考えている。その中で現在文化庁の一部署で行っている国立近現代建築資料館も他の法人に移行するという事も考えられる。DAAS も、組織としてのあり方、法人としてのあり方も新しい基盤等が見つけられるかもしれないという将来的な可能性は充分あると考えている。問題は DAAS が継続する事である。普及センターから支援を頂き、会費等の改善も考えながら数年を存続するという事で WG 内でも検討している。

(事務局:三塩)アーカイブの動き、状況が整うのをまつ、国家的な動きがあれば、ということに期待したいところである。それまでに会費の見直しも検討していきたいと考え、資料3のシミュレーションを行った。(シミュレーション内容と各パターンシナリオについて説明)ここで、皆さんの御意見を伺いたい。企業理事としての会費が高かったが、シミュレーションから少し減額が出来ればと考えている。この数字から下げ幅を調整しながら、例えば36万から32万等になど検討を行って、10月に予定する総会で数字を計上したいと考えている。WGでシミュレーションして、委員の方々には事前に数字を示したいと考えている。今日の所は御意見を承り、設定金額についてはWGにお任せ頂きたいと考えている。現在理事企業会員として2口を支払っている場合、現状 $36万 \times 2口 = 72万$ を 例えば $24万 \times 2口 = 48万$ とした場合はどうだろうか。

(安生氏)企業規模が大きいので、それに応じてということ考えているが、72という数字改めて大きな数字だと考えている。数字の根拠等も示されているので、50という数字は妥協点ではないかと思われる。また根拠の数字も示されているので納得をしてもらえと思う。

(事務局:三塩)72万という数字は会費としてはかなり高い。全体のシステムを変えずに、会費を全体的に減額していくという考え方は、バランスがとれた判断ではないだろうか。今日の所は24万という数字を押さえているが、一気に下げる事は難しいかもしれないので改めてシミュレーションをして数字を示したいと考えている。

(笹委員)問題は黒字をどの程度のこせる状態に出来るかというところ。そこで決定していきたいと考えている。二口を一口に変更、会費自体を減額、等々でシミュレーションしたい。

(青木委員)普及センターの支援により、その浮いた部分を会費という形で還元する方向はわかるのだが、その前提となる将来的な所が、先ほどは今後の(アーカイブ業界)機運の高まりを待つということであったが、もう少し今後の展望が見えないと、それまでなんとか持ちこたえて行くということに、会員の理解を得られるだろうか。文化庁については、具体的な動きになりつつあるのだろうか。

(笹委員)それは今年度予算を請求するという段階である。

(事務局 三塩)笹先生がWG、委員会に参加されているとで、情報が入ってきているが、まだ予算請求の段階の為、次回の総会資料に盛り込むということも早いと考えている。将来の

展望については、明確に回答があるということではないが、3年間の変化、機運に期待をもっているというところである。会費を下げながら維持する事を最優先したいというのは、ここ3年の動向をみながら再度判断したいということで、総会報告をしたいと考えている。

(竺委員) JIA の建築アーカイブスでは、委員が継続出来ないため、NPO 法人を立ち上げた。建築文化継承機構という名称で JIA の会長が理事となった。法人格を得られたことで活動がしやすくなったということがある。DAAS もそのようなベースで考えて行きたい。

(事務局 三塩) 毎年どの程度の黒字が残っているか、というところだが。補助金がある場合収入は1,000万規模であるが、それ以外の800万、900万程度の場合はどうだろうか。

(事務局 武藤) 平均して300万程度は繰越金となっている。シミュレーション表では、支出をパターンAとしても、必要経費だけとかなり絞っているのものでそれ以外にも費用がかかる。第7期は収入 800 万程度、単年度は50万程度の黒字であり、前年度からの繰越金で300万程度は残っている。

(事務局 三塩) その辺りをヒントにして、バランスを考えて行きたい。

[議案2] まちなみ景観事例の収集・情報提供活動事業実施について

資料4に基づき、第8期同様にコンテンツ制作を行うということで、事務局より説明を行った。VR(バーチャルリアリティ)を使った空間画像データの制作は昨年度、東急東横線駅舎、代々木体育館、絵画館前景観等の収録を行った事を口頭にて補足説明した。

[議案3] 運営委員長の交代について

次期委員長の候補が確定出来次第、委員会にて検討したい旨、三塩運営委員長より説明があった。

[その他]

第9期総会、理事会について

第9期総会、理事会日程を2014年10月23日10:00に予定している旨を口頭にて説明し、改めて書面にて案内を送付する旨説明を行った。

DAAS卒業設計大賞の開催について

2011年の震災後、DAAS事務局内での人員(Webでの告知、集約、掲載等)の不足等により開催を保留としていた卒業設計大賞について改めて行うことを事務局より口頭にて説明した。

以上